

## 第4回京田辺市学校教育審議会 議事録（要旨）

会議名	第4回京田辺市学校教育審議会
日 時	令和4年2月15日（火）午後5時30分から午後6時40分
場 所	京田辺市役所 3階305会議室
内 容	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 (1) 答申（案）について 4 質問 5 その他 6 閉会
出席者	(委員) 沖田会長、河村副会長、井脇委員、宮谷委員、鈴木委員、尾谷委員、柳澤委員、安井委員、岡田委員、奥西委員、岩井委員 (市教育委員会) 山岡教育長 (事務局) 藤本教育部長、中井教育指導監、鈴木教育部副部長、北尾教育総務室担当課長、片山こども・学校サポート室総括指導主事、村中こども・学校サポート室指導主事、藤井学校教育課長、吉村教育総務室企画係長
傍聴者	5人

### ●議事（要旨）

#### (1) 答申（案）について

《事務局から資料に基づき説明》

【委員】本案が答申として出された後、教育委員会で具体化に向けた施策を検討されると思うが、この中でポップトラックの人員体制やスペース的なことも含め、早急に検討いただける内容だと思う。なお、学習支援や相談活動にICTの活用をということが前面に出ているが、条件整備、方法を検討するということが必要になると思う。例えば、各家庭でタブレット端末を使用する場合に、家庭の通信環境や子ども、保護者のリテラシー、それから端末の管理についても検討する必要がある。かつ、コンテンツについて、どういう内容で学習支援を行うのか研究しなければならない。また、学習支援の場合にその学習効果を

どう評価していくか、その子ども達の意欲をどうつなげていくのか、そういう具体的な検討がこれから課題として、教育委員会が整理していく必要があると考える。

【会長】実施に関しては財政的な手当や人の手当等が必要になり、そういうことも踏まえて、教育委員会の中で検討いただくことになると思う。

【委員】市においてポットラックを不登校児童生徒支援の中心的な機関のひとつとして位置付ける。そのために人が配置され、その人が学校のさまざまな業務をうまくコーディネートする。また、相談業務でも関わり持つ。そういう人の配置の方向性が充実されると感じた。一方で、スペースの指摘が複数あるのに対して、その辺の今後の方向性というものがどうなっていくのかなど。

【会長】教育委員会におかれでは、いろいろ課題があると思うが、実現可能なものから進めていただきたいと思う。

【委員】今回諮問があった不登校問題については、子ども本人もご家庭の方も大変お困りのことだと思う。学校に行けないけど、自立させていかないといけないという中で、学校も取組を進めてはいるが、十分ではない点もある。答申でまとめられた、ポットラックを拠点に公的な場所で支援が進むことは素晴らしいことだと思う。フリースクール等に経済的な理由で通えないケースもあると思われ、そういう意味では公的なところで行うということは課題もあるが意義は大きい。子どもが社会で活躍できるような手立てについて、対応が具体的なものになればいいなと思う。

【委員】短期、長期という形で上手く整理されていると思う。特に、短期的な取組にポットラックのアウトリーチが行える体制整備についてやコーディネートできる専門員の配置に向けた取組が入っている点が良いと思う。

【委員】不登校児童生徒の対応という点で、しっかり整備された内容だと思う。今後、対策を検討していく中で、ハード面だけではなく、通う児童生徒の目線で進めてもらうと大変ありがたい。ただ、今の状況で懸念しているのがコロナが収束した後、子ども達にいろいろな影響が出てくるのではということである。休校が2か月、3か月あったが、その後、不登校になった子どもたちが増えた印象があり、そういった意味でこの先多くの子どもたちの困り具合がちょっと予測できない、思っている以上に影響が出てくるのかなという心配はしている。

登校しぶりや、不登校になりそうな子ども達への支援という形も大事にしていただきたいと思う。

【会長】コロナ後の子ども達の状況分析ということも早急に対応していただきたいことで。

【会長】それでは本案を答申として確定し、教育委員会に対してお渡ししてよろしいか。

(異議なしの声あり)

【事務局】全4回の会議において熱心にご審議いただき、ありがとうございました。本案が、令和3年6月29日付けで受けた諮問に対する答申として確定されたことを受け、後日、沖田会長から教育委員会を代表して山岡教育長へ手交をお願いしたいと考えています。

【会長】了解しました。

### ● 諒問

#### 《事務局から諮問内容について説明》

【会長】ただいま事務局から説明があったことについて、次回以降、具体的に調査、審議を進めていきたい。事務局から説明があった内容について、質問等はありますか。

【委員】同志社山手地区が開発されるとなったとき、同地区に小学校を設置するという案があったと思うが。

【事務局】確かに同志社山手地区の中に小学校用地としてのスペースと中学校用地としてスペースが確保されていた。しかし、これは同志社山手地区の西側や南側も開発された場合を想定して確保されていた土地である。ただ、結果として開発は行われず、長期的な観点で見たときに同志社山手地区に新たに学校を作るほどの児童生徒数が発生するかという問題が生じ、当時の判断として、新たに学校を建てるほどのものではないという整理が行われた。その上で、今は少し児童生徒数が多くなっているという実状はあるが、これは同志社山

手地区の販売計画が、当初はある程度ゆっくりとしたペースで販売されると  
いう見込みであったが、実態はかなりのスピードで販売され一時期に児童生  
徒数が増えてしまった結果である。

【会長】その他ご質問等ありませんか。それでは、来年度、第1回目の会議の開  
催予定は。

【事務局】令和4年6月以降に開催を予定している。

(以上)